



犬の飼い方●注意情報

**飼い犬を狂犬病から守りましょう。
飼い主の義務です**

■狂犬病を発症すると、致死率はほぼ100%

狂犬病は、犬だけではなく、全てのほ乳類がかかる病気です。人は、狂犬病にかかった動物に咬まれることで感染します。発症すると、致死率はほぼ100%です。

狂犬病は、日本やニュージーランドなどのわずかな国を除き、全世界で発生しており、毎年55,000人以上が死亡しています。海外では、狂犬病が身近なところにも存在していることから、ほとんどの国で感染する可能性があり、日本と同じ感覚で動物に触れあわないようにしましょう。また、海外渡航時には、予防注射を受けるようにしましょう。万が一、犬などに咬まれたら、すぐ狂犬病ワクチンを接種することで、発症を防げます。

■予防注射はお済みですか？

日本では、狂犬病予防法により犬の登録、予防注射、野犬などの抑留の徹底により、狂犬病を撲滅していますが、常に侵入の脅威にさらされています。万が一の場合に備え、飼い犬の登録と予防注射を確実にすることが、感染の拡大とまん延の防止となり非常に重要です。

そのためには、犬の飼い主一人一人が狂犬病に関して正しい知識を持ち、犬の登録を市町村にして、毎年1回の予防注射を受けさせ、首輪に登録時に渡される鑑札と注射済票を付ける、これら狂犬病予防法で義務づけられていることを確実に実施しましょう。

毎年4月には、狂犬病予防集合同射が行われますので、詳しくは、地域の市町村までお問い合わせ下さい。



インタビュー

センターから譲渡されたニャンコ、その後どうしていますか？

家族に迎えて



八割れ模様がチャームング

「飼猫の死後、たまたま相談所のHPで譲渡を知り、不幸な猫の命を一つでも救えたらと、譲り受けました。スタッフの方が猫の性格や特徴をよく見極めてくださっていたので、全く不安なく家族の一員に迎えられました。初めは押し入れに隠れていましたが、今では家中をパトロールするとても元気な可愛い良い子です。」

■これから譲り受けようと思われる方へ。

「どの子もそれぞれに辛い経験をしています。ありのままを認め、あふればかりの愛情を注いであげてください。」



京都動物愛護センターの開所に伴い、平成27年春に「動物愛ランド・京都」オープニングイベントとしてドッグラン等を活用した企画を計画中です。詳しくは今後発行される市民しんぶんに掲載予定です。乞う御期待。

編集後記 特集の記事を書くに当たり、収容されるペット・殺処分される犬猫の現状に触れ、大変残念に思いました。同時に、京都市の職員の皆様が、それらを減らすために懸命になっている姿も知ることができました。もっと沢山の事を言いたかったのですが紙面の関係で割愛いたしました。殺処分をゼロにしたいという気持ちは、伝わったでしょうか？（渡部）

平井由美子さんは家庭動物相談所から猫を譲り受けました。名前はしらすちゃん。生後7か月ぐらいで警察に保護され、その後相談所に来た子です。平井さんにお話を聞きました。



平井さんとしらすちゃん

「助けてあげたつもりでも、こちらの方が助けられています。いてくれるだけでありがとうございます。素敵な出会いがありますように。」

センターへのアクセス

■近鉄十条駅
約0.6km
徒歩約5分

■地下鉄十条駅
約1.2km
徒歩約15分



発行：
○京都府健康福祉部生活衛生課
○京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課
○動物愛ランド・京都 ボランティアスタッフ
平成27年3月25日

愛ランド通信

～人と動物の共生を目指して～



平成27年度春号



動物愛ランド・京都は
平成27年4月オープン
します！



遊びに
きてね！



特集

殺処分ゼロを目指して

いよいよ、この4月に「京都動物愛護センター（愛称：動物愛ランド・京都）」がオープンし、その活動を開始します。京都において収容される犬や猫の殺処分についての現状を知り、殺処分ゼロを目指した取組について紹介したいと思います。

●収容される犬猫達

京都（京都府と京都市合計）における犬猫の収容頭数は、平成8年度には、犬で4千頭を超え、猫で1万6千頭近くでした。当時は、野良犬、野良猫とも大変多く、それらが繁殖により自然と増えてしまうため、譲渡もしていましたが、収容しきれない等の状況があり、ほとんどが殺処分されていました。平成25年度には、犬猫共に収容頭数は約10分の1にまで大幅に減りました。年々減少してきた理由としては、①近年、動物愛護の考え方が浸透し、ペットを終生飼育する飼い主さんが増えたこと、②ペットを屋内で飼う飼い主が増え、野良犬・野良猫が減少したこと、が挙げられます。

（中面に続く）



収容された猫